磯津通信

磯津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磯津南町2839
野田之一さん気付

磯津魂の親子

いつだったかダンプの正面に「磯津魂」と書いたダンプを見つけ、その運チャンに会いたいと思っていた日が突然やって来た。冬鳥の観察の午後、公害患者の茂さんの家を訪問した帰り、私の電気自動車のことで話した青年がその運チャン(息子）だった。いつでもおいでというので数日後の仕事が終わった頃お宅にお邪魔した。

西喜興業のオヤジ西野喜代松・孝之親子。お察しの通り「西喜」はオヤジの苗字と名前の頭文字からとっている。ダンプ二台、解体工事から土木、埋立、土砂・川砂・砕石販売と手広い。ダンプに種類があるって知らなかった。〇で囲んだ中に建（建設業）販（砂利販売業）石（採石業）砂（砂利採取業）砕（砕石業）営（いわゆる営業ナンバー）他と7種類ほどあるんだそうだ。

神戸生まれの海好き

喜代松さんは６３歳と言うから私と同い年。しかし全然違う。風貌もたくましいし男前、身体もがっちり。苦労の度合いも全く違う。しいて言えば話し好きなところぐらいは似ている。

神戸の長田区で生まれた。震災の後行ってみたが跡形もなかった。３歳で母一人子一人で養母のいた磯津に来て、小中を磯津で育った。母子家庭でよくいじめられた。でも、当時ひどかった公害で喘息だった子に「ぜんそくボーイ」なんてあだ名をつける悪ガキだった。吸うだけで吐くこと知らんで顔が膨らんできたという。

港の突堤から突堤へ素潜りで船の下をくぐったりした。磯津には懐かしいところがたくさんある。中卒後鉄工・鍛冶屋と器用にこなしたが夜逃げ同然で磯津を離れた。それから２０年ぶりの磯津。「きよちゃん」と覚えてくれているおばあちゃんもいたが、大きなダンプ二台の置き場がなかなか決まらないほど再び磯津の人になるのに苦労している。

裏見てきた鋭い目

今は国交省の仕事で川の出っ張りを造ってよしずが生えるような工事をしたり、第3コンビナートで解体の仕事などしている。「公害の元をつぶしているんだぜ。（証拠つぶしみたいなもんさ。）」世の中いっぱい矛盾してるぜ。排ガス規制はいいけど、泣いているもんもいる。行政区によっていいところとアカンところがあって、苦労している。それができやんところは一台１５００～１８００万もする新車を買って無理して遠いところまで仕事に行っているぜ。

自然破壊はしたらあかんけどそれを利用して仕事にする人もいる。東北が困っているけど、支度金とか高速代とか出やんし、末端の業者には単価も毛が生えたくらいで寝るとこもない。そんなんならわしら部外者は行くことはないし、こっちに居れば家族の顔も見れるってもんだ。

同じ町民になりたい

磯津に帰ってから、西野親子に続いて磯津の若い衆で町内清掃させてもろたり、犬の糞取ったり、草を刈ったりした。また、できたら、人知れずやろうと思う。

鯨船や盆踊りもやりたいと動いた。なかなかかみ合わないけどこの町が好き。鯨船の時、幟だけ揚げてパチンコ屋で顔会わしているなんて寂しい。磯津のみんなと同じように、ダンプの運転してても休んでても祭や盆踊りには駆けつけた。「磯津魂」と書いた息子孝之さんの思いはひとつ。もう一度みんなで磯津の賑わいを取り戻し、できる形で、この町の大事なものをよみがえらせたい。その磯津のみんなの中にもどりたい。この磯津の暖かさの中でふるさとのみんなに混じってできることをさせていただきたいと西喜ファミリーのみんなは思っている。

《　連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磯津環境学校情報室　》